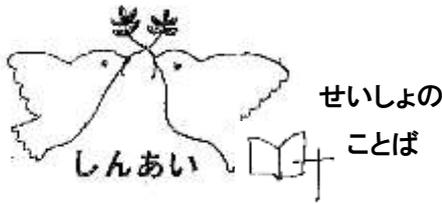


2025年度 3月 3日

オリーフ通信



主が一步一步を備えてくださる。

箴言16：9

神愛保育園

「3月をむかえて」

春の訪れが日ごとに聞こえてくるようになりました。まだまだ寒い日もありますが、川沿いの早咲きの桜を目にすると、もうすぐそこまで春が来ていることを感じます。

さて、3月は子どもたち一人一人がそれぞれ新たな成長や出発を目の前にする時期です。この一年、関わってきた子どもたちとの関係や、ともに過ごしてきた日々の積み重ねを振り返ると、子どもたちが秘めている個性と能力の素晴らしさに改めて驚かされます。今この時の子どもたちの姿を見ると、「子どもを成長させるのは、大人のかかわり以上に、子どもたち同士、子どもの集団がとても大切である」ということを子どもたちから教えられ、改めて再認識させられます。嬉しい出来事はもちろん、言葉にすることが難しい心の中の葛藤や不快な出来事も、まわりのお友だちや大人に受け止められ、受け入れられる毎日の積み重ねで、子どもたちの心は大きく成長してきました。それは、乳児・幼児、どの年齢であっても、お友だちや周りの大人から「大好き」「あなたが大事ですよ」と愛される存在であることを体験することで、自分を受け入れ、明日に希望を持つ力になるのです。

そして、コロナ禍の中を共に育ち、響き合って育った11名の年長さんが今年度も神愛保育園を卒園します。1月下旬からクラス移動を行い、年長さんだけで過ごしています。その姿は本当に頼もしく、充実感に満ち溢れています。それは、目をキラキラと輝かせながら目の前の遊びに没頭する一方で、毎日ともに長い時間を過ごした仲間だからこそ生まれる、兄弟姉妹のようにお互いをかけがえのない存在と感じ、自然と助け合う姿が随所で見られます。それは、言葉がつかないために手が出てしまったり、思い通りにならず涙を流したり、けんかをしたりすることもあった乳児期からの積み重ねの日々が信頼関係を形づくっているのでしょう。新しい歩みが始まる中で、自分を大切にしてくれた良き仲間の存在を信じ、一緒に過ごしてきた経験が、これから生きていく上での大切に堅固な心の土台となっていくように願っています。

また、それぞれのクラスでも、進級に向けた準備が始まっています。現在、3歳児が4歳児のクラスへ移動して一緒に過ごしています。お兄さん・お姉さんがやっている「米とぎ」や「高度な遊び」を、興味と関心を持って見つめ、自分たちもやってみたいと参加していく新しい姿が見え始めています。今月は、乳児クラスでも、クラス移動などが始まります。子どもたちは、環境の変化に少し不安を感じる姿も見られるかもしれませんが、その不安に寄り添い、残り僅かな日々を大切に過ごしていきたいと思えます。

最後に、保護者の皆様、一年間、様々な面でのご協力、ご支援をいただき、誠にありがとうございました。子どもたちと大人、お互いがかけがえのない存在であることを感じられた一年であったことに心から感謝いたします。 神愛保育園園長 鶴澤由記子





最近の食育活動を紹介します！

たんぼぼ組

おやつのおかかおにぎりを、子どもたちの目の前で握りました。クラスに入ると、「いいにおい〜」とわくわくした声が聞こえました。丸か三角形で作る予定だったのですが、「ハートがいい」「星がいい」という要望があり、腕が試されました！みんな、何度もおかわりして食べていました！

「おいしい！」「おかわり！」とたくさん食べていました！



もも組

野菜ちぎりをしました。今回はチンゲン菜を使用しました。野菜のにおいや感触を楽しみながら、ちぎっていました。クラスでちぎったチンゲン菜は、お昼ごはんのサラダに使用し、栄養士が目の前で野菜を紹介してから、子どもたちの目の前で和えました。調理工程を見た子どもたちは、いつもより少しサラダに興味を持ち、野菜が苦手な子どもが、一口食べようとする姿がありました。



みんなで「おいしくな〜れ！」と応援しながら作りました！



何度もおかわりする姿もありました！

ちゅうりっぷ組

『食べる時の姿勢』についてお話ししました。3つのポイントとして、背筋を伸ばす・両足の足裏をきちんと床につける・机と体の間は拳1つ分離すということを伝えました。また、袋を食道に見立て、まっすぐな姿勢で食べることで、ごはんがきちんとお腹に落ちていく様子も見てもらいました。食べるしぐさをしながら正しい姿勢を練習しました。



「グー入るかな？」「できた！」
「ピシッ！」と言いながら正しい姿勢が出来ていました。



保健だより 2026年 3月



2月はこの時期らしい乾燥した寒さの日もあったり、風間は春の温もりを感じる日があったり、寒暖差の多い季節となりました。南風が吹く日もあり、季節の変わり目を感じる時期です。また卒園式を控えて、式で歌う歌の練習をする可愛い声が響く保育室です。(園では消化器症状やインフルエンザB型でお休みするお子さんがいました。)

【3月3日は耳の日です】

3月3日は、「耳の日(33=みみ)」の日です。ちょっとした不注意が、内耳炎や外耳炎の原因になることもあります。次のポイントに気をつけましょう。

- 耳を爪で引っかいたり、引っ張らない。
(耳に違和感や痛みを感じる時の行動なので、耳鼻科受診をしましょう。)
- 耳あかがかたまっていないか、こまめにチェックする。(子どもの耳孔は小さいので、塞がってしまうこともあります)
- 鼻をかめるようになったら、かむ時は片方ずつ静かにかむ。

耳あかが見えていても取りづらい時は、無理せず耳鼻科を受診してください。

花粉に注意

春の足音が聞こえるようになった中、花粉症の季節となりました。今年の花粉症は発生が早く(2月上旬)飛散量も多いとの情報もあります。早い人は2月から症状があらわれることもあるようです。2~3才でも花粉症を発症することが分かっています。鼻水だけでなく、流涙・ときにぜん息やアトピー性皮膚炎など他のアレルギー症状を引き起こすこともありますので、早目の受診が大事です。外あそびの後に手や顔を洗ったり、服を着替えるなどの対応も大切になります。



ひだまり ～地域の親子と園児の交流～



日差しも日増しに暖くなり、春の気配を間近に感じられるようになりましたね。



今回の「園児と遊ぼう」はたんぽぽ組と森下第2児童遊園で合流して一緒に遊びました。普段はひだまりで過ごすことが多いのに、この日はお母さんと一緒に公園へ出発！戸惑う姿も見られましたが、園児たちが自然に受け入れてくれて、バネしかけの乗り物を押ししてもらったり、しゃぼん玉を追いかけて捕まえようと一緒に公園を走りまわったりするうちに、すっかり仲良しになりました。

今月の「保育園であそぼう」は、GreenTrioによる室内奏にひだまり親子も参加しました。普段子どもと一緒に聞く機会が少ないフルート、オーボエ、ファゴットの演奏に耳を傾けて体を揺らしながら楽しみました。

今後も保育園の園児たちとの交流を持てるようなプログラムを考えていこうと思います。





ともにそだつ



私たちは、保護者の皆さんと共に子育てをしています。
園の中での子どもの様子を伝え、子どもの育ちを共に考え、
喜びを共有したいと願いながら、この保育日誌紹介のコーナーを
設けています。ともに子どもから学んでいきましょう。

2026年2月20日（金） 天気 晴れ時々曇り もも組（2歳児）

「 OOになりたい! 」

今日は四丁目公園へ散歩に出かけた。Aが保育者に「おおかみやって!」と声を掛け、保育者と追いかけてっこをして遊んだ。保育者が絵本の「七ひきのこやぎ」の話を再現して「トントントン おかあさんだよあけて」と声を掛けると、Aも絵本の内容に沿ってやり取りを楽しむ姿が見られた。しばらくすると、Aは植え込みに隠れて、「Aいないよ!」とかくれんぼを始めた。たんぼ組の子どもたちやもも組の友だちも次第に集まって来て、複数人で植え込みに隠れて遊び始めた。異年齢との交流もあり、とても楽しんでいる様子だった

この日誌は、もも組のお散歩の様子が書かれたものです。

最近のもも組さんでは、とっても微笑ましい光景が見られます。それは、保育者の真似をした「保育者ごっこ」です。絵本を手に持ち、保育者の口調を真似て読み聞かせをスタート! 耳を澄ませてみると、お話のストーリーをしっかりと思い出して語っていたり、時には自分で考えた「即興の物語」を披露してくれたり……。その創造力の豊かさには驚かされます。

2歳児にとっての「ごっこ遊び」は単なる真似ごとではなく、心の健やかな成長を示すとても大切なステップです。お母さんやお医者さんなど、憧れの存在になりきる「役になる楽しさ」はもちろん、お料理を作ったり注射をしたりといった「行為そのもの」や、フライパンなどの道具を使いこなす喜びも、この時期ならではの輝きに満ちています。さらに、お友だちや大人と同じ世界を共有し、「どうぞ」「ありがとう」とやり取りを交わすこと自体が、子どもたちにとって大きな喜びとなっているようです。こうした遊びを通して、経験したことを頭の中で思い浮かべる「イメージする力（想像力）」をぐんぐんと育てています。たとえ目の前に実物がなくても、積み木をケーキに見立てたり、ペンを注射器に見立てたりできるのは、知能が大きく発達している証です。自分の中で膨らんだイメージを他者と共有し、やり取りを楽しむ経験を積み重ねることで、「言葉の力」や「人と関わる力」も自然と育まれていきます。この先も、子どもたちの自由な発想を大切にしていきたいと思います。



2026年2月18日(水) 天気 曇りのちはれ ひまわり組(5歳児)

「菊川公園での出来事」

今日は年長になってから初めて菊川公園に行った。年中時代に行った時は工事中だったが、今日は滑り台などのアスレチックもきれいになっており、「今日は遊べるね」とみんなで久々の菊川公園を楽しんでいた。公園ではアスレチックの揺れる橋を渡るときに、少し怖いと感じその思いを声に出しているAやBがいるにもかかわらず、CとDが楽しんで揺らしていた。その姿をEやFが「怖がっているお友だちがいるでしょ。揺らすのはやめてあげて!」と言ってくれる。保育者が言おうとしていたことに気付いてくれ、(担任は)嬉しい気持ちになった。EやFの言葉を聞いて、揺らしていたCも気づき、「ごめんね」と伝えていた。その後は他の保育園の友だちもいたので年長の子どもたちは考えながら遊んでいた。

(クラス移動でちゅうりっぷ組に行った後)年長同士でかかわりあう時間が増え、少ない人数だからかもしれないが、困っているお友だちを助け合いながらかかわり、また、人の思いに気づける姿がとても増えてきた。その年長児の子どもたちの姿に大きな成長を感じた

この日誌を読んで、担任が感じるように、私もとてもうれしく感じたので、皆様にぜひご紹介したいと思いました。

卒園の日が近づき、子どもたちの表情には年長児としての自信と、仲間を想う優しさが溢れています。先日、久しぶりに訪れた菊川公園での出来事は、まさに彼らの集大成ともいえる成長を象徴するようです。

新しくなったアスレチックで、揺れる橋を渡る遊びが盛り上がる中、少し「怖い」と感じて声を漏らしたお友だちがいました。すると、その様子にいち早く気づいた子が「怖がっている子がいるよ。揺らすのはやめてあげて!」と毅然とした態度で声をかけたのです。保育者が言葉を添えるより先に、子どもたち自身の正義感と思いやりの心が場を動かしました。

この何気ないやり取りの中には、小学校生活への基盤となる「10の姿」が確かな力として育っていることを感じました。相手の立場に立ち、何が正しいかを判断して行動する道徳性・規範意識の芽生え。そして、自分の「楽しい」という衝動的な欲求を、相手の状況に合わせてコントロールできる自律性。こうした内面の育ちは、日々の生活の中で仲間とぶつかり、助け合ってきたからこそ芽生えた「心の根っこ」です。また、楽しさの最中であっても指摘を受け止め「ごめんね」と行動を正せた姿は、友だちの表情から感情を読み取る豊かな感性と表現の育ち、さらには他園の子がいる場でも状況を見て遊び方を調整する社会生活との関わりの深まりを感じました。年長児での活動を通じ、困っている誰かを助け、互いを尊重し合う絆を深めてきた子どもたちです。目に見える成長以上に、この「心の成長」が大きく育ったことを何より嬉しく思います。残り1か月まだまだ大きく成長してほしいと願っています。

